



長塚節「土」明治45(1912)年 春陽堂 初版 装丁:平福百穂



夏目漱石原稿 「土」に就て

《通常展》テーマ展示

新収蔵資料展

# 漱石

# 土

# に就て

# のメッセージ

「面白いから読めといふのではない  
苦しいから読めといふのだ」

令和元(2019)年**5月14日(火)**～**6月30日(日)**  
**新宿区立漱石山房記念館**

〔開館時間〕 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

〔休館日〕 毎週月曜日

〔観覧料〕 一般 **300円**、小中学生 **100円**

※団体(20人以上)は個人の観覧料の半額

※小中学生は土日祝日等、観覧料無料日があります。

※障害者手帳等をお持ちの方は手帳の提示で無料になります。

〔主 催〕 新宿区立漱石山房記念館(公益財団法人新宿未来創造財団)

〔協 力〕 中島国彦・石崎等



夏目漱石肖像 大正元(1912)年



長塚節肖像 明治44(1911)年  
常総市教育委員会提供

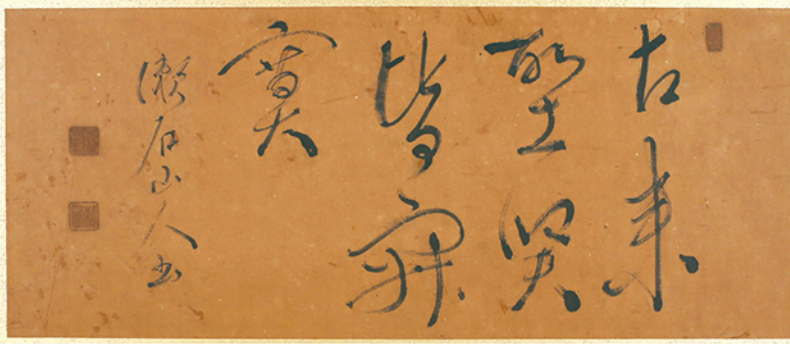


長塚節生家 常総市教育委員会提供



《通常展》テーマ展示 新収蔵資料展

# 漱石「土」に就て」のメッセージ



夏目漱石自筆扁額「古來聖賢皆寂寞」



夏目漱石書簡、メモ貼り交ぜ屏風



夏目家所縁の提重

「面白いから読めといふのではない  
苦しいから読めといふのだ」

漱石山房記念館には開館以来、多くの資料をご寄贈・ご寄託いただいています。

このたび、近年ご寄贈いただいた資料と、新たに購入した資料を紹介する展示会を開催します。

なかでも夏目漱石原稿「土」に就て」は長塚節の名作「土」を多くの読者に紹介した原稿です。

「土」は、茨城県岡田村(現・常総市)国生(こっしょう)あたりの農村を舞台に、貧しい暮らしをしている農民一家と彼らを取り巻く自然・風俗などを丹念に描いた、長塚節の代表作です。

もともとこの作品は、東京朝日新聞に、明治四三(一九一〇)年六月一三日から一月一七日まで、15回にわたって連載されました。これは当時、東京朝日新聞で「門」を連載し、文芸欄を担当していた夏目漱石が、長塚節を推挙したものでした。その後単行本として刊行される際、長塚節から依頼されて漱石が序文「土」に就て」を書きました。漱石はこのなかで「是は到底

余に書けるものではない」と記すと共に、「面白いから読めといふのではない。苦しいから読めといふのだ。」と高く評価しています。単行本「土」は、縮刷版も含め、その後何度も版が重ねられ、大きな反響を呼びました。

大正四(一九一五)年二月八日に長塚節は亡くなりましたが、昭和四(一九二九)年には、全六巻からなる『長塚節全集』が刊行され、短歌、紀行文、小説等、長塚節の作品全貌が明らかにされました。

今回の展示では、I正岡子規との出会い、II紀行文から小説へ、III「土」の発表、IV「土」の刊行と反響、の各コーナーを設け、「土」が誕生し、多くの読者を得るまでの流れを、漱石とその門下生たちと長塚節との関係に着目してみていきます。

加えて新たにご寄贈いただいた、漱石自筆扁額、書簡メモ貼り交ぜ屏風、夏目家所縁の提重、漱石(金之助)と坪内逍遙(雄蔵)の名が並んでいる、東京専門学校専修英語科の卒業證書を紹介します。

## ギャラリートーク

担当学芸員による

展示解説

日時：5月18日、6月1日・15日・29日の各土曜日 14時～(20分程度)

会場：漱石山房記念館 2階展示室

申込：不要(観覧券が必要です)



### <交通>

- 電車 | 東京メトロ東西線「早稲田駅」1番出口より徒歩10分
  - 都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅」東口より徒歩15分
  - バス | 都営バス(白61)「牛込保健センター前」より徒歩2分
- ※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

# 新宿区立漱石山房記念館

〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7 TEL:03-3205-0209 FAX:03-3205-0211

https://soseki-museum.jp